

コミュかる

杉並区の文化・芸術情報紙
COMMUNICATION & CULTURE

発行 杉並区民生部文化・交流課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1
☎03-3312-2111(代表)
http://www.city.suginami.tokyo.jp/

特別号
2020年
6月25日発行

「コミュかる」は、「コミュニケーション」と「カルチャー」を用いた造語です。
※次号は9月21日発行予定です

いま改めて、
文化・芸術応援宣言。

50th…の前に
プレイバック!

2012年5月から隔月発行してきた『コミュかる』。本来なら今号で50号の節目となるはずが、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年5月号が休刊、節目は持ち越しに…。そこで今回はこれまでの『コミュかる』を振り返る特別号。杉並区は今後も文化・芸術を支え続けます!

コミュかるのバックナンバーは杉並区ホームページでご覧いただけます。
[コミュかる 杉並 検索]

中面では杉並で活躍中の皆さんからのメッセージをご覧くださいませ



「すぎなみアート応援事業」で アートを支え、アートで応援!

区では、新型コロナウイルス感染症の影響により、劇場・ホールなどの文化・芸術を発信する場や演劇・コンサートなどの表現活動が失われないう、双方を支える「すぎなみアート応援事業」を実施します。杉並区の文化・芸術の土壌を維持し、区民の皆さまが安心して文化・芸術を楽しむことのできる環境を整えていきます。

- A 劇場やホール等の運営者向け(場への支援)**
- 名称…杉並区文化・芸術発信の場継続給付金
 - 概要…新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響を受けている文化・芸術発信の場を守るため、国の持続化給付金を受けた施設に対し、給付金を上乗せして支給します。
 - 対象者…杉並区内で文化施設を運営しており、国の持続化給付金の給付を受けた個人または法人
例：劇場・ホール・ギャラリー・ライブハウス
 - 助成額と予定件数…100施設程度(定数に達し次第終了予定) 1施設当たり 個人：20万円 法人：40万円
 - 申請方法…郵送
 - 申請書類…区公式ホームページより入手してください。
 - 受付期間…令和2年6月18日～令和3年1月29日
 - 支払時期…申請後、2～3週間後

- B 文化・芸術活動事業者向け(活動への支援)**
- 名称…杉並区新しい芸術鑑賞様式助成金
 - 概要…3密を防ぐ等の新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施する文化・芸術活動事業に対して、事業に係る経費の一部を助成します。
 - 対象者…以下のいずれかに該当する方
 - ①杉並区内に住所を有する個人または活動拠点を有する団体
事業実施場所を問わず、2019年4月1日～2020年6月17日までに、広く一般公衆に観覧させることを目的とした公演や展示会等の事業実績を有すること
 - ②杉並区外に住所を有する個人または活動拠点を有する団体
杉並区内で2019年4月1日～2020年6月17日までに、広く一般公衆に観覧させることを目的とした公演や展示会等の事業実績を有すること
 - 助成額と予定件数…1事業当たり 上限30万円
600件程度(第1期：第2期それぞれ300件)
 - 申請方法…メールまたは郵送
 - 申請書類…区公式ホームページより入手してください。
 - 受付期間…令和2年6月18日～7月31日(第1期)
 - ※対象期間：令和2年6月18日～令和2年10月31日
 - 支払時期…事業報告後、約1カ月後

問い合わせ先：文化・交流課
A 場への支援担当 ☎3312-9415
B 活動への支援担当 ☎5307-0366 ☎5307-0734

杉並ゆかりの文化人

区は、杉並にゆかりの文化人・芸術家の活動の軌跡を、貴重な文化財産として後世に伝える映像作品を制作しています。パソコン等で視聴できる短編のほか、区立図書館、文化・交流課では、長編版を収録したDVDを貸し出します。

- vol.01 洋画家 佐野ぬいさん
- vol.02 木彫家 橋本聖太郎さん
- vol.03 染織家 佐々木苑子さん
- vol.04 スペイン舞踊家 小松原庸子さん
- vol.05 詩人・小説家 ねじめ正一さん
- vol.06 クラシックギター奏者 荘村清志さん
- vol.07 アニメ監督 大地丙太郎さん
- vol.08 女優 渡辺美佐子さん
- vol.09 能役者 野村四郎さん
- vol.10 日本語学者 金田一秀穂さん
- vol.11 奇術師 藤山新太郎さん
- vol.12 ジャズピアニスト 山下洋輔さん
- vol.13 書家 藤沢昌子さん
- vol.14 落語家 古今亭志ん輔さん
- vol.15 小説家 角田光代さん

区民ギャラリー
詳細は [杉並区 区民ギャラリー](#) 検索

アートファンミーティング
詳細は [アートファンミーティング 杉並](#) 検索



日本フィルハーモニー交響楽団

新型コロナウイルスの影響で日本フィルは本年2月末から6月末までの計47公演を中止いたしました。ようやくコンサート再開への道筋が見えてまいりました。お客様の安全面に十分に配慮しながら、安心して音楽を楽しんでいただけるよう、綿密に準備をしております。また、外出自粛の中でも音楽をお届けしたいの思いから、「クラシックちよい聴き」と題し、過去の演奏会の動画をウェブ上で、無料公開しております。ぜひ楽団公式ホームページからご覧ください。コンサートのみならず日本フィルが活動の柱として大切にしているエデュケーション、リージョナル(地域)、全国の被災地での活動も残念ながら多数を中止せざるを得ない状況となりましたが、こうした中でも東北地方沿岸部の岩手県宮古市や福島県南相馬市の吹奏楽部のためにオンラインでの交流イベントを行うなど、新たな取り組みも開始しております。毎年開催している杉並区内公立小中学校の音楽鑑賞や、各種の室内楽についても、オンラインや映像等の活用により途切れることのないように努めております。相次ぐ公演中止により日本フィルの経営状況は大変厳しく、皆様からのご支援を必要としております。新しい技術やアイデアも駆使しながら、音楽の素晴らしさと面白さを皆様にお届けできるように全力を挙げさせていただきます。



杉並公会堂

杉並公会堂は、4月上旬より約2カ月にわたり全館休館を余儀なくされ、ホールを彩っていた響きが失われました。今後も社会的距離などいわゆる「新しい生活様式」により、コンサートや劇場の在り方においても、従来の在り方を大きく転換する必要に迫られています。杉並公会堂をホームとする日本フィル、区民をはじめとするご利用の皆さまとともに、“文化の灯を消さない”というミッションを深く胸に刻み、一日でも早くにぎわいあふれる空間を取り戻すために、皆さまのご理解とご協力により新たな取り組みを続けてまいります。



座・高円寺

空き地に咲いた一凛の花。一目見て、きれいだなあ。それから香りかいて、季節を感じて、前にその花を見たときのことを思い出し、その花が好きだった人のことを思い出し、その人が今どうしているかな、そして、会わなくなった月日を振り返り……。舞台芸術は一凛の花です。自分の思いを幾重にも重ねていって、心を奮立たせることで、明日の力に変えていく。座・高円寺は町の「広場」です。広場というより空き地です。町のちよっとした隙間のようなこの場所で、たくさんの花と出会ってください。



テレーサ・ルドヴィコ(演出家)

皆さん!すばらしいお知らせです!今年も座・高円寺で『ピノッキオ』を上演します。日本中の子どものために、おじいちゃん、おばあちゃん、お母さん、みんなのきょうだいのために作りました。ぜひ見に来てください。とても面白いお芝居です。今はだれもが家にいる時で、私もイタリアのバーリにあるこの家のなかにはいます。どうかお母さんのそばに、おじいちゃん、おばあちゃん、先生のそばにいてください。みんなを支えてくれる大切な人たちですから。ピノッキオはそれを知っています。大勢の皆さんと会えるのを楽しみにしています!



tupera tupera(絵本作家)『ピン・ボン』演出&美術

座・高円寺のレパートリーである、演劇『ピン・ボン』に携わって10年が過ぎました。一緒に舞台を作ってきたチームは、ピン・ボンファミリーとして大切な存在になり、常にお互いの感性をぶつけ合いながら毎年変化していく作品を楽しんでいます。舞台には、その日その場に集まった人と人が織りなす無限の可能性があります。コロナ禍が収まった後、これまで以上に熱い一体感が劇場に生まれると信じています。みなさんと一緒に、それを体感する日が楽しみです!



丸尾丸一郎(作家・演出家・俳優/劇団鹿殺し代表)座・高円寺でのOFFICE SHIKA PRODUCE公演作・演出

2020年3月、座・高円寺で上演予定だった舞台「罪男と罰男」の中止が決まった時、涙が出ました。悔しくて、でも誰も悪くなくて……悶々としたままステイホームすることになりました。芸術に何ができるんだろう?ペランダで花を育てることにしました。毎朝、水をやり、小さな成長を喜ぶ。僕の凍てついた心が温まり、色づいてゆくような気がします。芸術は花、少しでも人生が鮮やかに咲くようにこれからも舞台を作り続けたいと思います。



藤山新太郎(奇術師)

ようやくコロナウイルスも収束に向かっているようです。一時はどうなるかと思いましたが。私も、江戸の伝統手妻の活動を始めます。私は紙で蝶を作り飛ばすという手妻(マジック)をします。蝶というのは昔から吉兆の知らせ(ラッキーアイテム)と呼ばれています。こんな時こそ蝶をご覧になって、病氣も不景気も吹き飛ばしましょう。ブログなど出していますのでご覧ください。



古今亭志ん輔(落語家)

4月4日から寄席は休業期間に入りました。戦争中でも興行を行っていた寄席が休業したのです。芸人の存り様を考えさせられました。戦中の笑いと現在の笑いです。死と対面していた戦中の笑いは後のない、ある部分ヤケノヤンパチだったのではないのでしょうか。健全に社会が動き出して初めて人は腹の底から笑いたくなる。すぐそこに私たちはいます。皆さんが欲する時..使ってください。



山下洋輔(ジャズピアニスト)

人同士が生身で接するのが困難になったが、こうして文字でつながっているのは実に自然で貴重に思える。その場に楽器を持ち込み、来てくれた人々の前で、時には汗を飛び散らせて演奏するのが当たり前という我々のやり方のほうが不自然なのかもしれない。とはいえ、そういうことが10月に阿佐谷ジャズストリートで予定されているというのも、杉並区民の皆さんの懐の深さの証しだろう。



金子三勇士(ピアニスト)

世界中でコンサートの実施が困難な今、ピアニストとして、音楽家として、そして一社会人として自分に求められていることをしっかり考え、新たな挑戦を続けることがこの事態を乗り切るための鍵となるのでは...そう信じて、日々コンサート以外の形で音楽を発信しています。ウイルスが収束した時には音楽愛好家の皆さまと、僕たち演奏家とで今まで以上にコンサートが開催できる喜びを実感し、分かち合えることを心から願っています!



区民の皆様へ
アーティストたちからのメッセージ
All you need is ART.
どんな時でも、
文化・芸術はあなたのそばに。

吉野良祐(演出家/オペラ企画HAMApject)

世の中のさまざまな出来事やいろいろな人に思いを馳せる一芸術という営みは、その想像力の源泉です。身の回りの小さな幸せから、目をそむけたくなるような大きな苦しみまで、芸術は自分や他者が「生きている」ということを改めて教えてくれます。どんな時も芸術と共にありましよう、そして、共に生きていきましょう。



KONTA(ミュージシャン・俳優)

『旅とあいつとお姫さま』『ピノッキオ』出演
疫病で世界的にひきこもりを余儀なくされている。仕事にならず、遊びもならず。こうしてみると、人生は『生きるために食うために金を稼ぐために働くために...』(始めから繰り返し)あるのではなく、なにか意義のあることに触れることも大事としてみよう。ゲームは不要不急ではない、断じて!



山本さくら(パントマイミスト)

9月24日に開催日を変更した第50回公演「生命の樹」は上演できるか今のところ不明ですが、これまでと同じようにテーマに真摯に向き合い、作品全体をどう構成するか日々イメージトレーニングを重ねています。日常的に稽古をできないもどかしさがありますが、その分考える時間を持つことができ、舞台という得難い空間が私にとってどれほど大切なものであるかを知る機会となっています。



みこ・おうか(「東京子ども神楽Tokyoカグラプロジェクト」)

「めでたし、めでたし〜」。これは私たちが今年のお正月、杉並区の神社の神楽殿で初舞台を踏んだ時の台詞です。神楽師の先生のご指導のもと、おめでたい「子ども三番叢」という演目を演じました。東京では、子供による里神楽が絶えてしまっているとのこと。そこで今年、晴れて「東京子ども神楽」を旗揚げすることになりました。どんな大変な時でも笑顔をとれなかった神様たちにならって、お稽古頑張ります!



金田一秀穂(日本語学者・杏林大学特任教授)

呼びかけに協力して自粛していたわけではない。病気になるのが怖いから、外に出ないようにしていただけだ。変な空気を吸うのが嫌だから、家に閉じこもっていたのだ。このコロナとの戦いで、私は逃げ回る臆病者で、じっと隠れてやり過ごすという、なんともだらしない人間だった。そんな臆病な人間がなげなげと寝てもらえる。まだ罹患するかもしれない。もうしばらく、隠れていようと思っている。



金子あい(俳優/art unit ai+主宰)

皆さんお元気ですか?6月の座・高円寺2での公演は中止、仕事もなくなり途方に迷いましたが、この機にオンライン朗読教室やYouTubeに動画をアップしたり新しいことにチャレンジしています。劇場は、私たちが舞台で演じる物語と、お客様一人一人の物語が重なり合って「共鳴」する場です。人に会えない日々の中で、こんなにも誰かと共鳴したいと思ったことはありません。元気に劇場でお会いできる日が早く来ますように!



小田慎一

(あさがや能・狂言の会事務局長)
650年有余の歴史ある伝統文化「能・狂言」を若い世代に継承し、その真髄や奥深さを区民の皆さまにご堪能いただくことを目的に阿佐谷の地で活動しています。能楽師指導のもと10年を超えて開催している区内小学生能講座を応援し、また、屋外にある能楽殿で篝火がはげらる中で行なわれる幽玄な世界「新能」を能・狂言に初めて触れる方でもわかりやすい演目で催しています。現在、今秋開催に向け準備を進めています。

